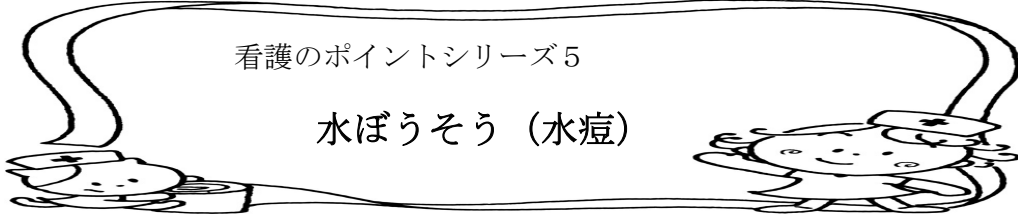


看護のポイントシリーズ5

水ぼうそう（水痘）



水ぼうそうは、水痘ウイルスの感染によって、全身に1mmから5mmくらいの盛り上がった赤みのある発疹が出る病気です。潜伏期間が1日から2日あります。発疹は、全身どこにでも出ます。口の中や頭にも出てきます。発疹は、出始めると、1時間ごとに数個以上というようなペースで増えていきます。朝2、3個出ていると、夕方見たら100個以上出ているということも珍しくありません。はじめは赤く盛り上がった発疹ですが、時間がたつと水疱（水ぶくれ）になり、その後、痂皮（かさぶた）となります。

かゆみが強く、たくさんでるとかゆくて夜も眠れなくなるくらいです。引っ掻くと発疹がつぶれ、とびひなど細菌の二次感染をおこすことがあります。汗を流すために入浴をした方がいいですが、発疹をつぶさないようにしましょう。目の中に出ると、角膜が傷つくこともありますので、水ぼうそうの時に目が赤くなったら眼科を受診した方がよいでしょう。

熱が出ることもあり、出始めると結構高く、39℃以上になることもあります。

まれに脳炎・脳症や脊髄炎などの重い合併症が起こることもあります。今は、よく効く飲み薬がありますので、水ぼうそうが疑わしいときは早めに小児科を受診しましょう。発疹が出はじめて一日以内に薬を飲み始めれば、よく効き、重症になることは少ないようです。

薬が効くとおおよそ4～5日たつと、新しい発疹がでなくなり、水疱（みずぶくれ）が痂皮（かさぶた）となります。そうになると感染力がなくなり、登園、登校ができるようになります。

なお、このウイルスは、一度体内にはいると、神経の根本に住み着きます。そして時々増殖をはじめて、神経を痛めつけることがあります。これが帯状疱疹、いわゆる「胴巻き」です。今では、飲み薬や注射薬が出来てきて、胴巻きも昔ほど怖い病気ではなくなっていますが、痛い病気ですので出来るだけ早く治療するに越したことはありません。

